

秋田県高校生 海外研修に参加して

大館鳳鳴高校 一年
奈良 瞳さん



私は今回のこの海外研修に、「自分が将来本当にやりたいこと」を見つげるために参加しました。

私は中学二年のころから、将来は国際的な仕事に就きたいと思っていました。でも、そのころはまだ政治の動きや環境問題、人権問題など、世界の国々がもっている様々な問題について詳しく知らずに、ただ「英語や他の国の言語を使った仕事」を望んでいるだけでした。そのため、三年になって公民を教わるようになって、それまで見えていなかった世界のかかえている様々な問題を知り、正直戸惑いました。

私は目の前に一つでも目標がないとやる気が出ない性格で、高校

は前から決めていたから頑張れたものの、入ってからは、その後の進路に関する具体的な目標が定まらず、気のぬけた毎日を送っていました。

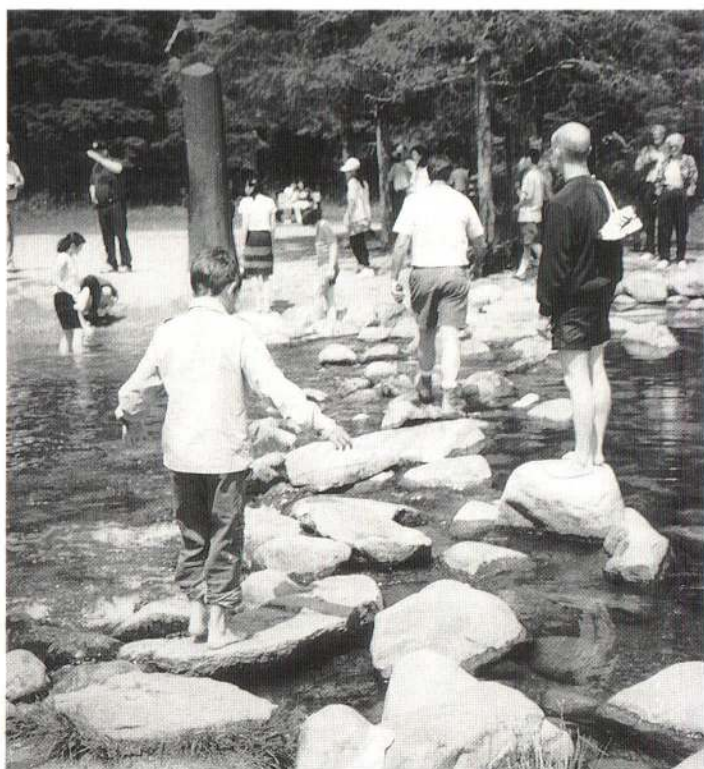
学校の勉強は日に日に難しくなるし、せめて一年の二期期までには自分の進路を形作っておこうと思ひ、その参考になればと、この海外研修に参加を希望したのです。参加したことがいい経験になったのかはまだよく分かりませんが、少しだけ進路が見えてきたような気がします。

向こうで学んだことはたくさんありすぎて、ここには書ききれませんが、思ったことが一つあります。それは、「他国の文化は積極的に取り入れた方がよい」ということです。

私の班のメンター（滞在中身の回りの世話をしてくださったかた）といい、ホームステイ先のご両親といい、自分たちの中に日本語や日本の文化をたくさん取り入れようとするのです。日本人、特に年配の人たちにはよくこういう人がいます。「私はどうせ一生日本にいるから、日本語以外の言語を取り入れる必要はない」確かにそういう人もいるかもしれませんが、私のホームステイ先のお

父さんは、インターネットを使って世界各国から日本についてのたくさん情報を取り入れているのです。このように、アメリカの人々は年齢や性格に関係なく、回りの国々の文化を進んで自分たちの生活の中へ取り入れようとします。私は、日本の人々もこのようにもつと回りの国々の文化を、自分たちの中に取り入れた方がいいと思います。その方が、世界の他の国々をよりよく理解でき、助け合っ

はできませんでしたが、ヒントは見付けることができました。私はこのヒントから自分の将来を決めるためにも、もつと広く世界に目を向けて、政治に関する問題、環境問題、人権問題など、今、世界中の多くの国々がかかえこんでいる問題について追求していきたいと思ひます。そして、「じゃあ、私はどの仕事に就いたら人の役に立てるか」を考えると、向こうで得たたくさん経験を生かして、慎重に検討し、その夢をかなえられるように努力していきたいと思ひます。



▲ ミシシッピ川の源流付近へ参加者全員で小旅行